

特別な支援を要する子どもへの対応について

五十嵐 みさ 議員

質問 医療的ケア児等の支援と、その家族のレスパイト(息抜きや世話のお休み)等も含め市の所見を伺う。

市長 乳幼児経過観察健康診査等で、発育や発達を継続して診るべき子どもを支援している。発達支援事業「ばんだグループ」は子育て相談にも活用されている。また、新たに設置する子育て世代包括支援センターは、特別な支援を要する子どもの早期発見・支援へつなぐ。医療的ケア児が地域へ戻る際は、関係機関が情報共有等による連携を図る。受け入れ

ている市内保育園もある。家族のレスパイトは負担感軽減も課題である。



タイムライン(防災行動計画)について

青木 健 議員

質問 本市のタイムラインの策定経緯と概要、周知等について伺う。

市長 国土交通省では、国が管理する河川のタイムラインが必要と考え、京浜河川事務所と多摩川の隣接自治体との間でも、策定を進めてきた。本市のタイムラインは、京浜河川事務所が作成したものを基に、本市の地域防災計画における風水害時の活動体制を時系列でまとめたものだ。今後はこのタイムラインに沿って適正な避難情報等の発令に努め、改定中の地域防災計画にも明記し、

職員や市民にも周知する。京浜河川事務所とも平常時から連携を図る。



▲タイムライン(防災行動計画)の流れ(国土交通省ホームページより)

教職員の時間外労働の規制について

池田 公三 議員

質問 教職員の長時間労働が問題となっている。本市における学校労働安全衛生管理の現状と対応を伺う。

教育長 児童・生徒が明るく元気に学校生活を過ごすためには、教員の心身の健康が何よりも大切である。本市の小・中学校は教職員数が10人以上50人未満だったため、衛生推進者の選任と、時間外労働が月100時間超の者からの申し出により医師の面接指導を行うことができる体制を整備してきた。教職員が50名超の学校も出てきており、対応する時期に来

ているため、今後その対応について調整していく必要を認識している。



福生市公共サイン整備方針策定後の課題について

大野 聡 議員

質問 方針策定後の課題は。整備に当たってどのような障害があるか。

市長 公共サインは施設への的確な誘導等が目的で、対象施設の名称変更や移転、道路新設等の際は早急に表示内容の整合を図る必要がある。誘導サインの配置・設置は、経路間の場所の設定や設置範囲、整備経費等の制約から、整備方針どおり配置・設置できない場合もある。防災食育センター整備工事にあわせて誘導サイン設置を検討し、前述の事由により現時点では未整備だが、設置場所

等を調整し設置予定。定期的なメンテナンス等が今後の課題である。



▲福生市公共サイン整備方針(冊子)

連動信号機設置について

奥富 喜一 議員

質問 都道249号線(産業道路)の武蔵野台一丁目15番地付近の交差点への交通信号機設置について、28年1月、福生警察署長宛に要望書が提出されたが、その後の進捗状況は。

市長 周辺地域の方々から、歩行者の安全確保のため、交差点への交通信号機設置の要請を受けたことから、福生警察署へ要望書を提出した。設置に係る進捗状況について、所管する福生警察署へ確認したところ、8月7日に、警視庁交通管制課と福生警察署交通課が現地調査を行って

おり、現在、警視庁において審査中とのことである。



▲都道249号線(産業道路)の様子

玉川上水・分水網の保全活用プロジェクトについて

堀 雄一朗 議員

質問 本市は景観・観光資源でもある玉川上水の史跡を有している。自然・歴史文化等の情報共有や2020年を意識した動き等をどう捉えるか。

市長 玉川上水は、本市を代表する水の眺望である。世界遺産や未来遺産への登録を目指す活動成果として、玉川上水ネットの「玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト」が、「プロジェクト未来遺産2016」に指定された。東京水循環の再生の提言等を含め市民団体の自主的な活動だが、玉川上水・分水網が再評価され、

更なる保全・活用につながる可能性があり、本市として動向を注視する。



▲景観・観光資源である玉川上水

次回定例会のお知らせ ◎傍聴におでかけください。

平成29年第4回定例会は、12月5日(火)から12月22日(金)までを予定しています。

◆本会議(予定)午前10時開会 12月5日(火)～8日(金)及び22日(金)

◆常任委員会(予定)午前10時開会 12月12日(火)～14日(木)

◎議場には、補聴器をお使いの方のために、補聴器に直接音声を送るヒアリンググループを導入しています。(旧名称「磁気ループ」は、磁気という言葉がペースメーカー等に悪影響を及ぼす、と誤解されがちなこと等により、新名称「ヒアリンググループ」に改称されました。)

平成29年第3回定例会本会議の傍聴者数等

・傍聴者数 延べ80人

・インターネット議会中継閲覧数 (9月5日～9月28日) 延べ125件

高齢者住宅事業の今後の見通しについて

三原 智子 議員

質問 福生市総合計画第4期修正後期基本計画を踏まえ、高齢者住宅事業を今後どのように進めるのか。

市長 更なる高齢化社会に備え、自力では適切な住宅確保が困難な高齢者世帯に対し、市営住宅の一部を高齢者専用とすることで、セーフティネット機能を維持することが重要だ。借上契約が順次満了となる市営借上高齢者住宅は、施設の状況にもよるが、高齢者が安心して生活できる住宅の安定確保のため、10年程度の契約更新を行いたい。本市が建設

した高齢者住宅も適正な管理を行い、高齢者世帯向け住宅戸数を維持する。



▲シルバーピア熊川の外観